

千葉県総合計画 ～千葉の未来をともに創る～（概要）

第 1 編 計画策定の基本的な考え方

- 策定の趣旨** …頻発化・激甚化する災害や人口減少社会の到来等、喫緊の課題に対応し、県民の命とくらしを守るとともに、「空」「海」などの魅力を磨き上げ、誰もが社会に参加・活躍し、豊かなライフスタイルを実現できる県づくりを加速していくため、新たな総合計画を策定する
- 計画の性格** …県政の基本的な方向を総合的・体系的にまとめた、県政全般に関する最上位の基本的かつ総合的な計画
- 計画の期間** …基本構想編：計画策定時を起点におおむね 10 年後を見据えた課題意識と千葉県が目指す姿を示す
・実施計画編：基本構想編を踏まえ、令和 7 ～ 10 年度までの 4 年間で重点的に実施する施策・取組等を示す

第 2 編 基本構想編

第 1 章 千葉の新たな飛躍に向けた 6 つのチャレンジ

本県を取り巻く状況や課題が変化中、直面するピンチをチャンスに転換し、県民の命とくらしを守るとともに、本県の更なる飛躍に向け、「空」「海」「里」そして「まち」「ひと」などの力を結集し、チャンスにより大きな成果に結びつけていくとの考えの下、県として取り組むべき課題を「6 つのチャレンジ」として整理した。

- （１）頻発化・激甚化する大規模災害等に備えた危機管理体制の強化と新たな犯罪形態への対応**
これまでの災害の経験を生かし、「防災対策には終わりが無い」との認識の下、市町村や事業者等との連携強化、流域治水対策、災害に強い道路の整備、孤立集落対策等により災害に強い千葉県づくりを進めるとともに、新興感染症の拡大に備えた対応力の強化、匿名・流動型犯罪グループなど新たな犯罪形態への対応など防犯対策の推進、未だ後を絶たない飲酒運転の根絶等に取り組むことが必要。
- （２）本格的な人口減少社会への対応**
急激な人口減少を緩やかにするとともに、将来にわたり県の活力を維持・向上させるため、県民一人ひとりの選択を尊重しつつ、結婚、妊娠・出産、子育て等の希望をかなえる環境づくりや、移住・二地域居住の促進、地域公共交通の維持・確保等が必要。また、持続可能な地域経済の確立に向け、京葉臨海コンビナートの国際競争力強化や、中小企業の支援・スタートアップの育成、**農林水産業をはじめ様々な分野での人材確保対策**等が必要。
- （３）成田空港の拡張事業等に伴う波及効果の最大化**
「第二の開港」とも言うべき成田空港の拡張事業や、圏央道の県内区間全線開通等により本県の拠点性がさらに高まることを踏まえ、新たな産業用地の確保や企業誘致、国際的な産業拠点の形成を図るとともに、更なる増加が見込まれる観光客の広域周遊の促進や道路ネットワークの充実強化等を進め、国内外からの「人・モノ・財」の流れを創出し、**県全体に効果を波及させることが必要。**
- （４）超高齢化時代における医療・福祉・介護ニーズの高まりへの対応**
高齢化が進行中、生涯現役社会の実現に向け健康寿命の延伸を図るとともに、増加する医療等のニーズに対応するため、医療・福祉・介護サービスの提供体制の整備、人材の確保・育成と生産性の向上等が必要。また、複雑化・多様化する問題を一人で抱えざるを得ず、支援を必要とする人が増えているため、一人ひとりの事情に応じた伴走型福祉の充実が必要。
- （５）多様性を活力とし、誰もが活躍できる社会づくり**
社会環境の変化に的確に対応するためには、多様性がもたらす活力や創造性が重要であるため、県政のあらゆる分野で多様性尊重の考え方を踏まえた施策を推進するとともに、全ての県民が、その人らしく活躍することのできる環境づくりを進めることが必要。また、今後も増加が見込まれる外国人の活躍を促進するとともに、**多文化共生社会の実現に向けた取組を充実させていくことが必要。**
- （６）独自の自然・文化を生かした魅力の発信と千葉に向かう人の流れの創出**
本県が有する空・海・里など様々な魅力を磨き上げ、戦略的に発信することにより、本県に向かう人の流れの創出や、県民の誇り・愛着の醸成につなげていくことが必要。また、県民の活力向上や地域の活性化に向け、**本県の特徴・歴史を生かした文化・スポーツの振興**に取り組むとともに、持続可能な環境づくりに向け、**カーボンニュートラルの実現や豊かな自然環境の保全・継承**等に取り組むことが必要。

第 2 章 千葉県が目指す姿

基本理念

～千葉の未来をともに創る～「県民を守り、支え、そして飛躍する千葉の実現」

基本目標

I 危機管理	II 産業・社会資本	III 医療・福祉	IV こども・若者	V 共生	VI 自然・文化
危機管理体制の構築と安全の確保	千葉経済圏の確立と社会資本の整備	超高齢化時代に対応した医療・福祉の充実	こども・若者の可能性を広げる千葉の確立	誰もがその人らしく生きる・分かり合える共生社会の実現	独自の自然・文化を生かした魅力ある千葉の創造

県づくりの方向性…地域の特性・地理的条件等を踏まえた 6 ゾーン（東葛・湾岸、印旛、香取・東総、九十九里、南房総・外房、内房）を設定し、各地域の活性化に向けた取組の方向性を示す

第 3 編 実施計画編

第 1 章 重点的な施策・取組

基本目標Ⅰ 危機管理体制の構築と安全の確保

- 危機管理体制の構築と「防災県・千葉」の確立
- くらしの安全・安心の確保

・主な取組に、「半島性を踏まえた防災対策」「防災 DX の推進」「平時と災害時を一体として捉えた防災対策の推進」「地域防犯力の向上」「飲酒運転の根絶」を新設

基本目標Ⅱ 千葉経済圏の確立と社会資本の整備

- 経済の活性化と更なる飛躍
- 稼げる農林水産業の推進**
- 社会資本の充実とまちづくり

・施策項目に、「新たな産業・地域づくりと企業誘致の推進」を新設
・主な取組に、「空港の拡張事業等に伴う波及効果による県経済の活性化」「中小企業等の DX の推進」「農林水産業の多様な担い手の確保」「持続可能な畜産業の実現」「地域公共交通のり・デザインの推進」等を新設

基本目標Ⅲ 超高齢化時代に対応した医療・福祉の充実

- 医療提供体制の充実と健康寿命の延伸
- 高齢者福祉と障害者福祉の充実

・主な取組に、「医療分野のデジタル化の推進」「県立保健医療大学の機能強化」「介護現場の生産性向上の推進」等を新設

基本目標Ⅳ こども・若者の可能性を広げる千葉の確立

- こども・若者施策の充実
- 教育施策の充実

・主な取組に、「こども・若者の権利尊重と社会参画の促進」「若者の出会いや仲間づくりの支援」「ライフデザインの構築と結婚の希望をかなえるための支援」「教育 DX の推進」を新設

基本目標Ⅴ 誰もがその人らしく生きる・分かり合える共生社会の実現

- 多様性が尊重され、誰もが活躍できる社会の実現
- 連携・協働による社会づくり

・主な取組に、「ダイバーシティの普及・啓発」「性的マイノリティの生きづらさの解消」「外国人の活躍支援」「自立支援体制の整備」を新設

基本目標Ⅵ 独自の自然・文化を生かした魅力ある千葉の創造

- 脱炭素化と循環経済の推進
- 環境の保全と豊かな自然との共生**
- 千葉の魅力の向上と活用**
- 千葉の特徴・歴史を生かした文化・スポーツ振興

・主な取組に、「脱炭素型ライフスタイルへの転換」「多様な発酵文化・産業を通じた本県の魅力発信」「スポーツによる地域づくりの推進」を新設

第 2 章 行政経営の基本的視点

多様化・複雑化する課題に、迅速かつ的確に対応するため、県行政を「経営する」という観点から、本計画を効果的・効率的に推進するための基本的な視点を掲げた。

- ・**市町村との連携強化** …県政運営の土台となる徹底した現場主義
- ・**県民や民間等との協働・共創** …開かれたコミュニケーションによるオール千葉県の力の結集
- ・**DX の推進** …県民サービスの向上や効率的な行政の実現、様々な課題の解決に向けたデジタル技術の活用
- ・**時代の変化に対応した行政組織への変革** …機能的で弾力性のある組織運用、行財政改革、地方分権の推進
- ・**SDGs の推進** …総合計画に掲げる施策・取組の着実な推進による SDGs の推進

第 3 章 実施計画の政策評価

・社会目標として、「成田空港の輸出入総額」、「農業経営体当たりの生産農業所得」、「65 歳の平均自立期間」、「放課後児童クラブの待機児童数」等を新設

EBPM の手法を踏まえた分析・検証と PDCA サイクルに基づく施策の改善・着実な実行を図ることとし、4 年間で実現を目指すべき 89 項目の社会目標（具体的な数値目標）を設定

次期千葉県農林水産業振興計画【概要】（骨子案）

計画策定の基本的な考え方

1 計画策定の趣旨

近年、世界の食料需給の変動、地球温暖化の進行、物価高騰や国内人口の減少など、農林水産業をとりまく様々な情勢の変化を踏まえた持続可能な農林水産業の振興が求められており、国では、これらの情勢の変化を踏まえ、食料・農業・農村基本法が見直され、令和6年に改正法が成立しました。

本県は、温暖な気候と首都圏に位置する恵まれた立地条件や農林漁業者の高い技術に支えられた全国屈指の農林水産県です。本県においても、国の政策動向を注視しつつ、実効性のある振興施策の実施により、農林漁業者の所得向上と農山漁村の活性化を図ることを目的として、新たな農林水産業振興計画を策定します。

2 計画の性格

本計画は、千葉県総合計画を上位計画とし、本県農林水産業における10年後の目指す姿を示すとともに、その実現に向けた具体的な取組を定めます。

3 計画期間

令和8年度から令和11年度（4年間）

本県の農林水産業を取り巻く環境の変化

- 農林漁業者の減少
- 耕地面積の減少
- 生産コストの上昇
- 環境変動(温暖化等)
- 食料安全保障の確保
- 消費行動の変化
- スマート技術の進展
- 成田空港の拡張事業
- 広域道路ネットワークの充実

【この先10年を見据えた中での課題】

- ① 農林漁業者が減少する中においても産業としての機能を維持・発展させるための体制構築
- ② 農山漁村の活性化を図るため、地域の農林水産業に多様な人材が関わる機会の創出や地域資源の活用による地域ぐるみでの取組推進
- ③ 頻発する大規模自然災害や高病原性鳥インフルエンザ等の家畜疾病など、農林水産業の持続性を脅かすリスクへの対応

基本方針

1 目指す姿

千葉県総合計画では、「～千葉の未来をともに創る～『県民を守り、支え、そして飛躍する千葉の実現』」を基本理念に掲げ、おおむね10年後を見据えて本県が目指す姿を示しています。本計画では、この目指す姿の実現に向け、各種施策を展開し、農林漁業者の所得向上を図ります。

2 基本目標 **（仮）稼げる農林水産業の実現と農山漁村の活性化**

3 構成のポイント

- ① 農林水産業を維持・発展させるための「ひとづくり」「ものづくり」を重点化
- ② 地域資源をフル活用した**農山漁村の活性化**の推進【基本施策Ⅳ】
- ③ 頻発する災害や家畜伝染病等への危機管理体制のさらなる強化【基本施策Ⅴ】

4 数値目標

目標項目	現状値	目標値(暫定)
農業産出額	4,029億円(R5)	4,200億円(R11)
県内漁港水揚げ額	443億円(R4)	450億円(R11)
農業・漁業生産関連事業の年間販売金額	790億円(R元-5平均)	860億円(R11)
【新】農業経営体当たり生産農業所得	380万円(R3 -5平均)	500万円(R11)
【新】漁業経営体当たり漁業所得	514万円(R元-5平均)	540万円(R11)

基本施策（主な取組）

Ⅰ 次世代を担う人材の確保・育成

- ◆ 農林水産業所得の向上と労働力の確保に向け、生産者の経営管理能力の向上等を支援し、千葉県農林水産業をけん引する経営体を育成
- ◆ 新規就農者・漁業就業者の確保から定着までの体系的な支援や企業による農水産業参入を促進
- ◆ 地域農業を支える集落営農組織の育成や中小規模農家の経営支援
- ◆ 高性能林業機械の活用や従事者の定着率向上等による林業事業体の経営基盤強化と新たな事業体の確保

Ⅱ 農林水産業の成長力の強化

- ◆ 革新的な技術導入やそれに対応した基盤整備の推進等によるスマート農林水産業の加速化
- ◆ 共同利用施設の整備等による産地の生産流通体制の充実・強化
- ◆ ほ場の大区画化等による生産性向上と農業用排水施設の機能保全対策による持続的な農業の実現
- ◆ 地域計画に基づく担い手への農地の集積・集約化と、農地の有効利用に向けた荒廃農地対策
- ◆ 県産飼料の安定確保や高能力な家畜の導入、作業の外部化等による畜産経営の体質強化
- ◆ 持続的な水産業に向けた水産資源管理の着実な実施や流通機能の強化による価格形成力の向上、漁港施設の整備・長寿命化などの取組を推進
- ◆ 有機農業や藻場の保全など環境負荷低減の取組や耕畜連携による資源循環型農業、環境変動に適應する取組を推進
- ◆ 森林整備の促進や森林環境譲与税の活用による森林資源の循環を推進
- ◆ 農林水産業の成長産業化を目指した試験研究を推進

Ⅲ 需要を捉えた販売力の強化と輸出促進

- ◆ 市場動向を捉えた産地体制の強化
- ◆ 「千葉県の顔」となる品目を核としたブランディング強化と多様な販売チャネルの開拓
- ◆ 県オリジナル品種をはじめとした特徴ある製品の認知度向上や料理を通じた県産農林水産物の魅力発信を展開
- ◆ 地産地消や食育の推進、地域資源を活用した商品開発や販路開拓を支援
- ◆ 輸出に係る生産・流通・販売の各段階における支援、成田市場・成田空港を活用した県産農林水産物の輸出促進

Ⅳ 地域の特色を生かした農山漁村の活性化

- ◆ 都市と農山漁村の交流促進により関係人口の拡大を図り、農山漁村を支える活力の創出を促進
- ◆ 農山漁村がもつ多面的機能を維持・発揮するための体制を強化
- ◆ 関係者が一体となった有害鳥獣対策の展開と「房総ジビエ」の普及・利用拡大
- ◆ 海業の推進等、地域資源（もの・ひと）を活用した所得向上等と地域の活性化

Ⅴ 災害等への危機管理強化

- ◆ セーフティネットの加入促進や事業継続計画(BCP)の策定推進により経営リスクを軽減
- ◆ 飼養衛生管理基準の遵守徹底等による家畜防疫体制や、発生予防と効果的な防除による有害動植物対策の強化
- ◆ 農林水産業関連施設・インフラや森林の整備、農山漁村の防災・減災対策による自然災害リスクへの対応
- ◆ 災害発生時に迅速な対応を行うための危機管理体制の強化

部門別戦略

基本目標の達成に向け、4年間の計画期間内に効果的かつ集中的に展開する施策を、園芸、農産、畜産、森林・林業、水産の5部門において「戦略」として打ち出し、着実な推進を図ります。

水産部門戦略（骨子案）

～ 稼げる水産業の実現と漁村の活性化 ～

現状と課題

- ◆ 海洋環境の変化、資源の減少 ⇒ 海洋環境の変化も踏まえた資源管理の着実な実施
- ◆ 所得の低迷、就業者の減少と高齢化、国内消費の低迷 ⇒ 成長産業化の実現
- ◆ 漁村地域の活力の衰退、多面的機能の発揮に支障 ⇒ 漁村の活性化の推進

主な取組

1 海洋環境の変化も踏まえた資源管理の着実な実施

- (1) 海洋環境変化への対応
 - ・海水温の上昇、貧酸素水塊（東京湾）、磯焼け（内房、外房）への対応
 - ・ブルーカーボンの創出
- (2) 資源評価の高度化と適切な資源管理措置の実施
 - ・漁獲可能量（TAC）管理
 - ・クログロ、カタクチイワシ、ブリ など
 - ・自主的な資源管理
 - ・資源管理システムの構築
 - ・資源評価対象魚種の拡大
 - ・漁獲報告システムの構築
 - ・水産総合研究センターの機能強化
 - ・研究機能の強化及び調査船代船の検討
- (3) つくり育てる漁業の推進
 - ・健全な種苗の生産・放流
 - ・種苗生産施設の集約化・機能強化

2 成長産業化の実現

- (1) 漁業・養殖業の生産性向上
 - ・スマート水産業の推進（スマート機器）、浜の活力再生プランの推進、アワビ輪採漁場の生産性向上、陸上養殖業への支援
- (2) 東京湾漁業の振興
 - ・ノリ養殖業・貝類漁業・漁船漁業の振興
 - ・漁場環境の改善
- (3) 拠点漁港等の生産・流通機能の強化
 - ・流通拠点漁港、生産拠点漁港の整備、水揚げ物の集約化
 - ・生産基盤の長寿命化対策の推進
- (4) 新規就業者の確保・定着
 - ・海洋人材確保・育成センターによる伴走型支援（相談、体験、研修、独立支援）
 - ・市町と連携した就業モデル構築
 - ・教育機関との連携（水産系高校）
- (5) 販売力の強化と輸出促進
 - ・千葉ブランド水産物や「さかなの日」等を活用した県産水産物の消費拡大と魅力発信
 - ・低利用・未利用魚の活用
 - ・バリューチェーン強化・構築
 - ・輸出の拡大に向けた環境整備

3 漁村の活性化の推進

- (1) 海業の推進
 - ・地域の海業推進事業計画の支援
- (2) 全国豊かな海づくり大会の開催（令和9年度開催）
- (3) 漁協の経営基盤強化
- (4) 多面的機能の発揮の促進（環境・生態系保全・漁村文化）
 - ・藻場・干潟等の保全活動への支援
 - ・漁業と洋上風力発電等との共生
- (5) 災害への対応
 - ・漁港・漁村の防災・減災対策
 - ・漁業無線の運用
- (6) 内水面漁業の振興
 - ・内水面漁業を活用した地域の振興
 - ・シラスウナギなどの漁業振興
 - ・アユなどの遊漁に対する支援
 - ・ホンモロコなどの養殖業の普及拡大
 - ・内水面の有する多面的機能の発揮
 - ・環境・生態系保全活動への支援

目指す姿

- ◆ 適切な資源管理が行われることで、持続可能な漁業が実現する。
- ◆ 資源管理と成長産業化の両立により、所得が向上し、年齢バランスのとれた漁業就業構造が確立する。
- ◆ 海業の推進、多面的機能の発揮により、漁村地域の活性化が図られる。

数値目標

検討中